

Title	寛政三博士の學勲(内田周平述)
Sub Title	
Author	松本, 芳夫(Matsumoto, Yoshio)
Publisher	三田史学会
Publication year	1932
Jtitle	史学 Vol.11, No.1 (1932. 3) ,p.138- 138
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19320300-0139

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

心が大和朝廷のために吸収包含されたことを説いてゐる。いづれも弘く他民族、殊に南方太平洋民族の傳説との比較から、各物語の原始的意義を探り、さうしてそれらが季節祭の祭儀と密接の關係あることを明かにしたのであつて、いたるところ教授の創見をうかがうことができ、從來日本神話に於いて疑問とされた點の解明されたところが甚だ多い。

もとより本書は日本神話のあらゆる問題を論じつくしたものでなければ、またその論ぜられた範圍内に於いても、若干の希望がないでもない。例へば季節祭そのものに就いてもつと考證してもらひたい希望が起り、また研究方法に於いても、特に多くの異傳のある場合、一應本文批判が必要ではなからうかなどいふかすかな疑念を湧く。しかしこれらは吾等の單なる希望や印象にすぎないのであつて、もちろん本書の價値に何等關係あるものではない。教授は夙に柳田國男先生の學問の影響をうけ、更に在佛四年間フランス社會學派の下に研究せられ、既に在佛中、日本の言語、神話に關する二著述を公にして、世界の學界に知られたる新進學者であり、本書はまさに教授にとつて歸朝後第一の成果として記念すべきものであるばかりでなく、わが學界にとつてもまた大なる收穫であり、その新鮮にして該博なる知識は、斯界の視野を著しく擴大し、深めるであらう。(松本芳夫)

寛政三博士の學勳 (内田周平述)

本書は孔子祭典における内田周平先生の講演であつて、朱文公

生誕八百年記念として、文公の靈にきゞげられたものである。

松平定信が前代田沼の弊政を改めて幕政を緊肅せんがために種々の改革をしたが、その中學問の獎勵は殊に注意すべきものであつて、所謂寛政の三博士、即ち柴里栗山、岡田寒水、尾藤二洲を登庸して學制改革をした。本書はまづ寛政の學制改革と題して、三博士が朱子學の硬派たる崎門の學、その軟派たる林家の學、及びその硬軟二派の間に位する木門の學の、『或はその一に屬し、或はその二を兼ね、能く三派の長處を調和して、之を實用に施し、以て當時の學弊を救済した』ことより筆を起し、當時の學界の弊害を叙して儒者が文人に墮落したこと、従つてその改革の必要であつたことから、三博士起用の顛末、及び學政改革、即ち異學の禁の大略をのべ、ついで三博士の師友關係と題して、三博士の學問人物を完成せしめたるその師、及び三博士を補佐してその改革を遂行せしめたるその學友についてのべ、もつて三博士の學統を明かにし、最後に世にあまり知られざる三博士の逸話を紹介して、いづれも名利に走らず、節義を重じたる人物であつたことをのべ、古の學者と今の學者とを比較論評して後者に大なる戒を與へられた。僅か四十七頁の小冊子ではあるが、要をつくしてよく三博士の學勳を明にされ、日本の儒學史、或は教育史の一節としても誠に重き文獻である。(松本芳夫)

歐米に於ける支那古鏡

(梅原末治著
刀江書院刊)

本書は、梅原末治氏の三年四ヶ月に亙る歐米留學及び再度の入